

教科名	技術・家庭科	学年	第3学年	埴 豊
-----	--------	----	------	-----

《学習目標》

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

《年間授業実施計画》

月	単元名・教材名等	学習内容・項目等	学習ポイント・その他
4	○情報の技術	・ コンピューター実習	・ コンピューターによる製作品ができる。
5		・ 情報モラルの必要性について知る。	・ デジタルでの作品データの提出ができる。
6		・ 情報社会で人権などの権利を尊重する必要性を考える。	・ 情報モラルの理解を深めることができる。
7		・ 身の回りの機器が、コンピューターによって計測・制御されていることに気付く。	・ 生活の中で計測・制御システムが利用されていることについて知る。
8		・ コンピューターを用いた計測・制御の基本的な仕組みを知ることができる。	・ 計測・制御システムの仕組みや各要素のはたらきについて知る
9		・ 計測・制御の条件に合うプログラムを作成することができる。	・ プログラムによる模型の制御を行う。
10		・ 情報に関する技術が、社会や環境に果たしている役割と影響について理解を深める。	・ 情報の技術の学習をふり返る。
11		・ 情報に関する技術を評価し、適切な管理・運用の在り方や新たな発想に基づく改良と運用について主体的に考える。	・ 情報の技術の役割と課題、これからの社会について考える。
12		・ 技術分野での問題解決を振り返り、私たちの未来について考える。	・ 3年間の技術の学習を振り返る。
1			・ 技術の工夫・創造と未来について考える。
2			
3			

《評価の観点および具体的な評価方法》

観点1「知識・技能」 観点2「思考・判断・表現」 観点3「主体的に学習に取り組む態度」

評価の観点	具体的な評価方法
観点1	・ 学習内容に関する定期テスト A評価→40点以上 C評価→19点以下（50点満点） ・ 製作品 A評価→プログラムのフローチャートが書ける。 課題に沿ったデジタル作品ができる。 C評価→未完成、未提出
観点2	・ 製作品のデジタルデータによる提出ができる。 ・ プログラムにより工夫ある作品を完成させることができる。
観点3	観点1から観点2を並べて AA BA （ABも可能性はあります）→A評価 AB BB CB CA→B評価 BC CC AC→C評価

＊家庭分野の成績と合わせて「技術・家庭」の成績が出ます。

《教科の約束事》

- ・ 2週間に1時間しかありません、忘れ物をしないように気をつけましょう。
- ・ 故障や破損になると実習ができません。タブレットは丁寧に使用します。

教科名	技術・家庭（家庭分野）	学年	第3学年	中山 もも
-----	-------------	----	------	-------

《学習目標》

○生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を見つけるようにする。 ○生活について見直し、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。 ○よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
--

《年間授業実施計画》

月	単元名・教材名等	学習内容・項目等	学習ポイント・その他
一 学 期 & 二 学 期 & 三 学 期	A 家族・家庭生活 幼児の生活と家族 幼児とのかかわり 家庭生活と地域のかかわり 持続可能な家庭生活	・ 幼児のころと今の自分 ・ 幼児の体の発達 ・ 幼児の心の発達 ・ 発達にとってのおとなの役割 ・ 遊びが必要なわけ ・ 遊びを支える環境 ・ 幼児の遊び道具の製作 ・ 幼児ふれあい体験 ・ 子どもの成長と地域 ・ 多様な人びとが暮らす地域 ・ 地域に暮らす高齢者 ・ 持続可能な家庭生活をめざして	○自分の成長や生活は、家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことに気付く。 ○幼児の心身の発達の特徴の一般的な傾向を理解し、個人差があることが分かる。 ○幼児の発達にとって環境が大きな影響を与えることを理解する。 ○幼児の遊びの意義がわかる。 ○幼児の発達を考えた遊び方を考えることができる。 ○幼児との関わり方について、実践を評価したり、改善したりしている。 ○幼児の発達と家族のかかわりについてまとめることができる。

《評価の観点および具体的な評価方法》

観点1「知識・技能」 観点2「思考・判断・表現」 観点3「主体的に学習に取り組む態度」

評価の観点	具体的な評価方法
観点1	「定期テスト、レポート、学習過程における技能の習熟状況、完成した作品」などを評価します。
観点2	「授業時のグループでの話し合い、プリントの内容、振り返りシート」など多面的に評価します。
観点3	「作業や実習、毎時間の学習への取組状況、作品の提出状況、家庭での実践記録」など多面的に評価します。

《教科の約束事》

教科の約束事

- 2週間に1度の授業なので、集中して授業を受けましょう。
- 教科書・技術家庭ノート・ファイルなどの勉強用具は絶対に忘れないようにしてください。
- 触れ合い体験などの実践的・体験的な学習活動を行います。
- 授業で学んだことを生かし、自立する力をつけるために、学習した内容を家庭で実践するようにしましょう。